

敏感力

近衛麗衣

私が今まで生きて来た人生の中で、打てば響くような返答を下さる方も少なからず、いらっしやいました。

しかしながら、的外れな鈍感な返答をしてくる人もいて面食らう事もしばしば、ありました。要するに、話が噛み合わない訳です。

人生を生き抜くためには、ある程度の「敏感力」が必要だと私は考えています。それは、自分が相手に傷付けられない能力でもあり、相手側も他者から傷付けられないための手段だと思います。

敏感力は、相手の言葉や態度だけでなく、視線からも察する事が出来ます。私は、どちらかと言えば、非常に敏感力の優れている人間だと自負しています。些細な視線、態度、言葉で私に対して相手がどのように感じているのか、瞬時に察する事が出来ます。

相手がある程度の社会的地位のある方でも、他人に平然と不快感を与える人と私は出会って来ました。また無名の方でも他人に失礼な態度を取らない人もいます。

おそらく、社会的地位があろうと無かろうと、大人としての振る舞いを出来る方と出来ない方がいるのでしょう。

日常の生活の中でも「敏感力」のない方に遭遇する事がありますが、これが男女関係のトラブルになると全く通用しない場合があります。

私は過去に自殺未遂を凶った経験がありますが、このケースが相手の男に全く「敏感力」がなく本当に鈍いと感じました。年齢が17歳年上という事もあり、男女間、セックスの考え方に対して世代の違いがあったのが一番大きな原因です。私が考えるには私の周りにいた人間が勝手に噂を立て、相手の男に私の気持ちを無視して、吹き込んでいた事も一因でした。いわば、周りの人間に私は陥れられたと今でも悔しく、後悔していますし、恨みにも感じています。

こういう話は、当事者間でしか分からない事実だし、第三者が「あの二人は肉体関係がある」と勝手に想像するものではない事でしょう。

また一方は本気でも、他方は遊びであり、単なる過ちだと考えている場合もあると私は考えます。たとえ、一時期は付き合っていたかも知れませんが、一方は別れたいと考えているかも知れません。

私個人は彼に対して恋愛感情は一切ありませんでした。しかし、彼は恋愛していると錯覚していたのでしょう。当時、私はカメラマンとして活動していました。その彼は、著書を何冊も書いている男でしたが、右翼団体の代表だと、後で知りました。

その男とは、首都圏の元・市議員で評論家としてもテレビ出演している女性のパーティーで知り合いました。彼が自分の著書を5冊、私に送付して来たのがきっかけで、会うことになりました。

その男は今でも、時々テレビに出演しています。おそらく、彼は私がカメラマンであった事から自分に関心があり、被写体として右翼を撮りたいと勘違いしたのだと今では思っています。

彼は、ただ単に「来て下さい」と言って無理矢理、私を呼び出すようになりました。漠然と「来て下さい」では何の用事なのか分かりません。「写真を撮って欲しい」とか、「お食事しましょう」とか言うのではなく、漠然と「来て下さい」としか言わないのです。要するに「無料で写真を撮りに来て欲しい」と言う事なのでしょう。

普通なら、「撮影料はおいくらでしょうか？」と聞くべきだと私は考えたのですが、そういう話は一切しませんでした。ですから、「忙しいから」と言ってやんわり断っていたのですが、「暇でしょう！それでもカメラマンかよう」と言い返してくるのです。非常に「鈍感な男」だったと今でも感じています。

それから、彼のその鈍さと一方的な思い込みで、「ストーカー状態」になって行ったのです。私のケースでは殺されはしませんでした。私自身が精神錯乱に陥り、自殺未遂を図る結果となってしまいました。

何故、もっと早く彼に私の真意を伝えられなかったのかと後悔しか残っていません。

相手の「鈍感力」について最近でも感じる事が良くあります。また反対に私の「敏感力」が極まり、相手が何を感じているのかを瞬時に気が付く事がかなりあります。

態度の悪い人がいると、すぐに察知する事が出来るのです。その人が何故、そのような態度を取るのかは分かりません。おそらく何らかの私の悪口を聞いて、私に失礼な態度を示すのでしょう。後日、その理由が判明した場合もありますし、今でも理由が分からないケースもあります。

昨年、ある有名作家のS先生とお食事をしたと言う知人女性がいたので私がお食事の席を設けた事がありました。そして、その時に彼女が泥酔して私は恥をかかされました。それから、私はショックで寝込んでしまいました。

しかし、彼女は自分の仕出かした事は記憶がなく、私とS先生の酔った姿だけを鮮明に覚えており、自分の事は棚に上げて私たち二人を批判しているのです。その後、紆余曲折があり、多方面から聞かされた話によると、根も葉もない話を彼女がでっち上げて話していると知りました。

私は呆れ果て、彼女とその彼女の肩を持ち、私に罵詈雑言を浴びせて来た俳

優夫人の携帯電話と携帯メールを着信拒否にしました。ところが、その女性は呆れた事に家の固定電話に電話して来て「お元気ですか？また仲良くしましょう」と言って来たのです。とても信じられませんでした。

普通の常識がある人ならば、着信拒否にされれば、相手の意志表示は理解できると思います。これでも大学を卒業しているのか？と愕然としました。

また、その彼女の肩を持った俳優夫人も友人を介して、私に「お詫びをした」と言って来ました。すでに謝罪して済むような問題ではありません。

「鈍感力」を飛び越えて、精神異常の世界ではないかと思いました。私は善意者であるにも関わらず、根拠のない誹謗中傷を受け、精神的な屈辱感を味わったのですから、もう二度と付き合う気はありません。

俳優夫人には友人を介して、伝言を依頼し、彼女には警告書を内容証明で代理人を立てて送付しました。通常、こんな経緯はあり得ないと思います。余りにも「鈍感」過ぎて話になりません。他人を傷付けて、それも理解せず、平然と固定電話に電話して来る神経には参りました。

いずれにしても、人間の感性は「敏感力」が大切です。「敏感力」を養えば、自分も傷付けられないし、他人も傷付けないと考えています。しかしながら、その「敏感力」を持ち合わせていない人種もいるので、何でもきちんと伝える事も必要ではないかと思えます。

前述の右翼の男にしても、もっと早くはっきり伝える事が出来れば、突き進んで来ないで、悟る事をさせられたかも知れません。彼の年代では、「女性が男性に尽くす」と勘違いする世代なのでしょう。今の時代でも、そういう女性は存在すると思います。自分を犠牲にしても相手に尽くすと言うタイプもいるでしょう。しかしながら、私はそういうタイプではありません。どちらかと言えば男を利用しようとするタイプです。

右翼の男に関しては、完全に私に取っては悪いように利用する存在になったと思います。決して、良い利用の仕方は永遠にないでしょう。

男女関係に限らず、「敏感力」を養い、危険を察知する事が必要だと思えます。それは人間関係に限らず、ビジネスや投資話にも言える事です。私も少額ですが詐欺の被害に遭ったり、無理矢理に高額商品を購入させられた事が何度もあります。

また最初から陥れようと近づいて来たケースもありました。今、過去を振り返ると、自分自身が甘かったと思います。もっと「敏感力」を磨き、瞬時に危険を感じ取る能力が必要なのが現代社会なのでしょうね。

思い返すと、信用させる場面を設定し、罠に嵌った事もありました。私を陥れた女性は、当時ある小さな政党から立候補していました。落選したのですが、

その政党の代表がマスコミで活躍していた有名人だから信用してしまったのです。この時、その党の名簿に名を連ねて立候補した男性は、元・経済評論家で、現在はある政党の代表をしています。

この男性は今、ある詐欺事件の責任を追及されている立場にいます。一体、何を信用したら良いのか分からない時代になって来ていますね。

また私は取材の仕事を通じて、「1989年に起きた兜町の風雲児と呼ばれた男が引き起こした有名な投資詐欺事件」「記憶に新しい2010年に代表者の懲役18年が確定した組織的な詐欺事件」など数々の事件にも関わって来ました。後者の広報誌には日本の最高学府の元・大学教授が執筆していました。世間の人たちはその元・教授が執筆している会社なら安心だろうと錯覚したのでしょう。その元・教授も被害者から裁判を起こされたそうですが、責任は問われなかったという話です。

結局は、投資した人間だけが損害を被り、そのお金は戻って来ることはありません。テレビ・ニュースで時々、詐欺事件の被害者が顔と名前を伏せて、被害を語る事がありますが、大変気の毒だと思います。しかしながら、1社だけに財産の全てを投資するのは極めて危険だと言えます。

基本的に上手い儲け話など詐欺話だと考えた方が良いのです。私の知人女性でも何で稼いでいるのか分からず、いつも色々な投資話やネットワーク・ビジネスをやっている方がいました。多分、紹介手数料などが収入源だったのだと思います。

私も彼女の紹介で、FXに手を出して損害を被りました。結局は自己責任かも知れませんが、友人知人に紹介して、自分が手数料を得ている訳ですから、彼女もその会社との共犯者と言えるでしょう。

彼女は私の相談には親身に話を傾けてくれる女性でしたが、ビジネスでは強気ではっきり物事の白黒を付ける人でした。今でも彼女には感謝していますが、他人に金銭的に損害を与えても余り気にしない神経には参りました。

今、世間では他人を信用させる手口は巧妙になって来ているようですので、それを見極めるのは、なかなか難しいでしょう。増して、マスコミに登場している人や有名大学教授などは利用されているだけかも知れませんが、彼らはもっと危険性を認識すべきなのでしょう。

それは、「感受力」だけでは難しいかも知れません。しばらく前には国会議員の妻が巨額の詐欺をして逮捕されたケースもあります。また前述のように、ある政党の代表が詐欺事件で責任追及を受けています。

本当に何を信用したら良いのか分からない時代です。投資話にしても何か購

入させられる件でもきちんと吟味しなければならぬでしょう。

私の場合、やんわり断っても相手は怯まず、強引に高額商品を売り付けられた事が何度もありました。気の強い私でも無理矢理、売り付けられるのだから、気の弱い人は、なかなかNOと言えないのでしょう。

私も今までの苦い経験を無駄にしないためにも、はっきりNOと言いたいです。これは、危険を察知する「敏感力」だけではダメなので意志を強く持ち、そういう人種とは縁を切るしかないのでしょう。

危険を察知しているにも関わらず、相手がそれを悟らず、「ストーカー状態」になった経験もある私なので、今後はもっと注意深く生きて行こうと思います。

以前、ある人から「貧すれば鈍する」と言われた事がありました。鈍感にならず、いつも「敏感力」で状況判断をしなければダメなのでしょうね。

私は過去の週刊誌での仕事の経験を買われて、探偵学校の講師をしていた時期もあります。ですから、人間関係にしてもビジネスにせよリサーチは必要だと考えます。しかし、単なる噂に惑わされる事無く、登記簿謄本とか確たる証拠書類で判断すべきでしょう。私もトラブルのあった人から事実無根の悪口を言われて、迷惑を被っているケースがあります。

今まで自分自身が相手から騙されたり、無理矢理に高額商品を買わされた苦い経験を活かして、油断する事無く、相手を調査してから交流すべきだと感じています。

でも、私自身は危険を察知したにも関わらず、周囲の人々から陥れられた事もありますので、これはいくら自分が注意しても避けられない場合があるかも知れません。世の中には例えば、刑法的な不当逮捕や冤罪を着せられるケースもあります。目撃証言にしても曖昧な事もあるでしょう。

結局、当事者ではなく第三者が勝手に憶測や想像で話を作り上げるのですから、堪った物ではありません。基本的には私も強引で相手をやり込めるタイプですが、それが他者に誤解を招くようです。

私は若い時から濡れ衣や事実無根の噂を立てられた事が頻繁にあり、何かトラブルがあると私が悪者にされているのです。自分で言うのも変ですが、私は自分が悪かった時にはきちんと謝るし、誠実な人間です。どうして、私には誤解や勘違いが多発するのか理解に苦しんでいます。

今後は、私自身も自分の行動や発言が相手側から、どのように感じられるのか、敏感に察知して日々生きて行こうと考えています。

(前衛ジャーナリスト)